

相次ぐワンマン運転トラブル

J R 白新線 乗客12人が乗車できず



8月20日、J R白新線の豊栄駅（新潟市）で12名の乗客が乗車できない事態が発生しました。

運転士への責任転嫁許すな

列車は2両編成のワンマン運転でした。運転士は所定通りの約30秒停車させた後、駅備え付けのミラーで乗降客がいらないことを確認してドアを閉め、発車しました。

しかし、実際には乗車できなかった人がおり、駅員に申告しました。この時に乗車できなかった人は12人、乗車した人は約15人、降車した人は約30人です。

J R新潟支社は「ミラーで乗降確認を行ったにも関わらず運転士が乗客に気付かなかったことが原因」としています。

しかし、そもそもワンマン化で、すべての負担と責任を運転士に押し付けているのは会社です。しかも、この間会社は業務融合化・統括センター化などを進

め、乗務員の仕事を「片手間」扱いしてきました。こうした合理化・労働強化の中で引き起こされた事態です。

運転士は所定通りの作業を行っています。今回の事態の原因はワンマン化であり、すべての責任は会社にあります。運転士に責任を転嫁することは許せません。

ワンマン化は撤回すべき

先日、横浜支社が今年3月の南武線のワンマン化によって、「10分以上の遅れが2倍以上」となったことを発表したばかりです。千葉でも、21年のワンマン化によって外房線・太東線で降車時に乗客が転倒して骨折、内房線・江見駅で降車時にドアに首が挟まれそうになるといった重大事故が相次ぎました。

ワンマン化による問題が相次いでいます。しかし、会社は長編成を含めた首都圏の全面的なワンマン化を進めようとしています。

その目的は喜勢社長のいう「車掌1000人削減」「創造的な仕事へシフト」です。乗務員の仕事も鉄道の安全をないがしろにして、どこまでも利益を優先するなど許すことはできません。ワンマン化、業務融合化、組織再編攻撃に反対の声をあげよう。